

授業科目名	成人看護学臨地実習Ⅱ(急性期)	担当教員	◎兼子裕美、櫻井一江
必修	開講年次：3年後期	単位：3単位	授業形態：臨地実習 135時間

【授業概要】

これまでの学びや、「成人看護学」で学んだ講義、演習を臨地実習の中で実践として活用し、侵襲的治療を受けたり、周手術期にある人を援助する能力を養うとともに、実習を通して自己の看護観・倫理観を高める。

【授業目的・目標】

1. 成人期にある対象者が手術を受けるために必要な検査、治療、処置の内容を理解し、対象者が安全に手術を受けることができるように必要な方法、技術を習得する。
2. 治療・手術による形態的变化や障害を理解し、対象者の生体侵襲（手術、麻酔による影響など）および身体的状況と結びつけて捉え、個別的な看護を実践できる。
3. 対象者の回復過程を理解し、社会復帰に向け心理、社会、身体的側面からの援助を他職種およびチームの一員として連携し、健康教育、退院指導を行うことができる。
4. 急性期の看護過程を対象者を通して展開できる。

【履修条件】

「基礎看護学臨地実習Ⅰ・Ⅱ」、「成人看護学概論」、「慢性期成人看護援助論」、「急性期成人看護援助論」を修得していること

【授業計画】

受け持ち患者は手術を受ける患者（全身麻酔、腰椎麻酔、伝達麻酔、局所麻酔）を対象とする。高齢化が進行した現在、成人期の患者のみでなく、高齢者の方でも受け持ちをさせてもらうことがある。

- 1 日目 急性期実習オリエンテーション、病棟オリエンテーション
実習 2 日目以降：情報収集、全体像の把握、看護計画の立案、患者へのケア、看護計画の修正、看護計画に基づいた援助・ケア、評価
- 2 週目：中間カンファレンス、中間評価
- 3 週目：最終日に急性期全体カンファレンス、最終評価、評価面接

【教科書】

急性期成人看護援助論で使用した教科書、参考書、授業資料

【参考書】

【評価方法・評価基準】

目標評価 70%、カンファレンス 10%、課題レポート 10%、実習態度 10%

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習

- ・急性期成人看護援助論の授業内容：講義や演習で行った事例、記録の展開の復習
- ・バイタルサイン測定、日常生活援助、フィジカルアセスメントは実践できるように各自復習、練習しておく。

事後学習

- ・毎日、学んだ内容を振り返り、翌日の実習に生かせるようにする。
- ・実習終了後、実習全般での学びを振り返り、課題レポートとして記述する。

【教育目標（必須要素）との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅱ. 質の高いケアを実践するためのリーダーシップ能力、Ⅲ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅳ. テクノロジーを効果的に活用する能力、Ⅴ. 多職種から成り立つ医療チームにおけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅵ. ヘルスプロモーションと予防に関する知識と実践能力、Ⅷ. 生涯にわたり継続して専門性を向上させる能力、Ⅸ. あらゆる対象に向けた包括的な看護実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習に係る記録については成人看護学臨地実習Ⅱが終了後に学生個人に返却する。

【備考】